

## 議 事 録

<b>会 議 名</b>	令和3年度 第1回 教育課程編成委員会
<b>日 時</b>	令和3年9月24日(金) 15:00~17:00
<b>場 所</b>	中央工学校OSAKA 1号館 31・32教室
<b>参 加 者</b>	[委 員] (敬称略) 小松原 学、金沢 ちかこ、小坂田 昌広、田中 由之、 岩尾 美穂(欠席) [関係職員] 中村 聖吾、中島 征治、平上 秀明、原 充介、 戸澤 まり子、西村 宜晃(司会)、岡野 和生(欠席)、吉田 知恵 (欠席)、唐木 恵美、江波 純平(写真)、中本 小百合(記録)
<b>内 容</b>	<b>1. 令和3年度 第1回 教育課程編成委員会</b> 司会の西村 宜晃職員が開会を宣言し、教育課程編成委員会が開会した。  (1) 学校長挨拶 中村 聖吾校長から本校における現状について報告があった。  ・10月1日から後期の授業が始まる。対面での実施を予定。  ・研究科の25名が二級建築士の学科試験(7月4日)を受験し、13名が合格。合格率は52%(全国42%)。昨年と同様、厳しい結果となった。コロナ禍で一時期、オンライン授業となったため、一部の学生のモチベーションが上がらなかったことが要因と考えられる。設計製図試験(9月12日)の合格発表は12月2日。  ・転科システムにより、住宅デザイン科からインテリアデザイン科へ1名、インテリアデザイン科から建築学科へ1名、合計2名が後期から転科予定。  ・令和2年度の学校基本調査から専門学校関係の情報を共有した。(専門学校数、専門学校への入学者数・高校生の進学率、出生

数の減少→18歳人口の減少など)

(2) 配布資料の確認

西村 宜晃職員より、配布資料の確認を行った。

(3) 戸澤 まり子建築系学科長より、「令和3年度教育基本方針」及び「令和3年度建築系の運営について」を基に今年度の重点項目について説明を行った。

(4) 各学科の教育内容について（オープンキャンパスの科別説明をとおして）

・平上 秀明教務部長より、建築学科について、オープンキャンパスで実施されている科別説明を行った。（校舎、コース、学校行事、時間割、カリキュラム、学科の魅力、資格取得、進路）

・戸澤 まり子建築系学科長より、住宅デザイン科について、オープンキャンパスで実施されている科別説明を行った。（間取りが表すもの、住宅づくりに携わる職業、卒業生の仕事、授業内容、資格取得）

・唐木 恵美職員より、インテリアデザイン科について、オープンキャンパスで実施されている科別説明を行った。（職業、コース、カリキュラム、授業内容、学校生活、資格取得、進路）

(5) 意見交換

本日の委員会の内容について、意見交換を行った。

① 田中 由之委員

18歳人口が減少し、ますます厳しくなっていく。建築を志す学生が減って、職人が減って、技術を継承していくのが難しくなってしまう可能性があるということを考えていかなければいけない。

オープンキャンパスの内容を聞いて、どの学科もわかりやすく説明されていた。どんなことが勉強できるのか、学校行事や入学後の資格取得についてが気になる点だと思うが、それ

らについて具体的にイメージできるよう説明されていた。一級建築士になったら何ができるのか、二級建築士になったら何ができるのかという説明もあつたらなお良い。どういうところに就職ができるのかというのは、企業名を羅列されていても、どんな仕事をしているのかというところまでは高校生レベルだと分からないと思うので、卒業生がその会社でどういふ仕事をしているのか、その点は住宅デザイン科の説明が具体的にイメージしやすく分かりやすかつた。全体的にビジュアルで分かりやすかつた。

② 小坂田 昌広委員

教育基本方針は何がかわっているのか楽しみだつたが、大きく変わったところはない。1年半以上のコロナ禍の中、「コロナ」という文字が多く、大変なんだなと痛感した。効率、推進、努力しますということが書かれているが、他の事をしたほうが効率的ではないかな。

18歳人口が30万人減少(18年後)していくこと、26校の専門学校が減少(昨年度比)していること、求人する側としても手を打たなければいけないと痛感した。どうやっていくのか、方向性を決めて対応してほしい。お客さんを惹きつけられないのは会社も学校も同じ。何か惹きつけるものがないと入学してもらえない。そういったものが必要だと思う。対面授業を増やすこと、在学中に資格がとれるのはすごく魅力だと思う。

③ 金沢 ちかこ委員

18歳人口の減少、18年後にそんなに減るの?人も少なくなっていく、デザインをさせていただくお客様も減っていく。今後は海外に目を向けていかざるを得ない。オンラインは多様化できるのではないか。日本だけがマーケットでなくなると思う。海外にも発展できるよう、オンラインなどを活用していいのではないか。

大学との差別化をどうするか。専門学校はハードを前面に出す方が強いと思つていたが、ソフトとハードがいいバランスだと思つた。現在のオープンキャンパスの説明では、資格や就職に繋げていくという部分が、高校生に分かりにくいのかも

しれない。人物像がもっと見えた方がいいと思う。非常勤講師の先生と卒業してからもコミュニケーションが取れるという点は自分の財産になる。すごく羨ましく思うので、その財産価値がもっと見えたらいいと思った。ビジュアル的にはわかりやすかった。構成も良かったと思う。

④ 小松原 学委員

オープンキャンパスの説明を聞き、自分なら入学したいなと思った。昔、卒業して25年経てば学校はどう変わっているのだろうと考えたが、コンピューター等、ハードな部分は変わったが、基本は変わっていない。

専門学校は実務体験をさせることが基本。教育の質が問われる。2年前にオンラインなど考えられなかったが、オンラインになっても質が問われる。時代に合わせて対応できる先生方の力が問われる。

『リスクを負わないことが最大のリスクだ。』

(6) 連絡

- ・学校関係者評価書（配布資料）について、HPに公開した。
- ・次回、2月18日（金）15時～17時の予定

(7) 中村 聖吾校長より本日の総評

- ・教育の質が問われている。教育内容を時代に合わせながら頑張っていきたい。

西村 宜晃職員が閉会を宣言し、教育課程編成委員会が閉会した。

【配付資料一覧】

- ・令和3年度 第1回教育課程編成委員会 次第
- ・令和2年度 学校関係者評価書
- ・令和3年度 教育基本方針
- ・令和3年度 建築系の運営について
- ・オープンキャンパス進行表
- ・オープンキャンパス科別説明レジュメ（各科）

以上